

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	スクールソーシャルワーク演習	後期	木3	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 昌哉	3年	比嘉研究室：5-418 mahiga@okiu.ac.jp	
学びの準備	ねらい	メッセージ		
	「スクールソーシャルワーク(以下、SSW)演習」では「SSW論」の内容を踏まえて、個別事例へのアセスメントはもちろんのこと学校、地域及び教育行政を把握し、地域全体をアセスメントする力を培う。また、SSW実践、特にマイクロ・メゾ・マクロプラクティスについて体験的に習得する。さらに、記録の意義とスーパービジョンの重要性について学ぶ。	スクールソーシャルワーカー認定課程の第一歩となる演習である。これまでの「スクールソーシャルワーク論」「相談援助演習」等を踏まえて積極的に取り組んでほしい。		
到達目標	社会福祉士に必要なソーシャルワークに関する知識やスキルを確認しつつ、加えてスクールソーシャルワークの独自の知識やスキル等について理解する。その際、教育・学校現場の理解は必須といえる。			
学びの実践	学びのヒント	授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む)		
	①オリエンテーション : 「SSW演習」の目的、全国及び沖縄県のSSWr配置事業の現状 ②ソーシャルワークの価値 : 「社会福祉士の倫理綱領」、「SSWrの活動指針」 ③学校・地域のアセスメント : 学校、県・市町村教育委員会、教育センター、適応指導教室及び学校を支援する人材 ④マイクロプラクティス : 支援プロセス(アセスメント、プランニング、インターベンション等)、ソーシャルワークスキル ⑤メゾプラクティス その1 : チームアプローチ、ケースマネジメント、校内ケース会議、拡大ケース会議 ⑥メゾプラクティス その2 : ケース会議の展開 DVD視聴 ⑦マクロプラクティス : 学外の社会資源の活用、市町村の子ども家庭相談体制、「連携」の意味、ソーシャルアクション ⑧事例から学ぶ その1 : 実践事例集より ⑨事例から学ぶ その2 : 実践事例集より ⑩記録 その1 : 記録の意義、データの蓄積、説明責任 ⑪記録 その2 : エコマップ ⑫スーパービジョン・評価 : 効果測定、スーパービジョン体制の確立 ⑬実践事例 その1 : あるSSWrの実践 DVD視聴 ⑭実践事例 その2 : 修復的対話 DVD視聴 ⑮実践事例 その3 : ゲストスピーカー 現役SSWrから ⑯まとめ			
テキスト・参考文献・資料など	山野・野田・半羽編著(2012)『よくわかる スクールソーシャルワーク』、ミネルヴァ書房。 ①山下・内田・牧野編著(2012) : 『新スクールソーシャルワーク論』、学苑社。 ②門田・奥村監修(2014) : 『スクールソーシャルワーカー実践事例集』中央法規。 ③米川編著(2015) : 『スクールソーシャルワーク実習・演習テキスト』北大路書房。			
学びの手立て	スクールソーシャルワークに関する情報はもちろんのこと、常に教育に関わる諸問題には関心をもち学んでほしい。授業時のみの学びでは足りないため、可能な限りボランティア活動等を通して学校現場とつながりをもつこと。加えて、外部で行われる講演会等にも積極的に参加すること。			
評価	授業態度、出席状況、レポート等を総合して評価する。			
学びの継続	次のステージ・関連科目 次学期の「スクールソーシャルワーク実習指導」に進めるように積極的に取り組むこと。 関連科目 : 「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」「スクールソーシャルワーク論」「スクールソーシャルワーク実習指導」等。			

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	スクールソーシャルワーク実習指導	前期	木3	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 昌哉	4年	比嘉研究室：5-418 mahiga@okiu.ac.jp	
学びの準備	ねらい	メッセージ		
	<p>スクールソーシャルワーク(以下、SSW)実習の意義について理解する。具体的には、学校現場におけるスクールソーシャルワーカー(以下、SSWr)の必要性やケース会議、チームアプローチ、実習日誌(記録)の重要性などについて学ぶ。さらに、実習直前ということを経験し、スクールソーシャルワーク実習に臨めるように努力すること。また、科目のねらいを鑑み、積極的に取り組むこと。</p>	<p>既に「相談援助実習」を経験しているが、学校現場の特異性を理解し、スクールソーシャルワーク実習に臨めるように努力すること。また、科目のねらいを鑑み、積極的に取り組むこと。</p>		
到達目標	<p>事前学習では、しっかりと準備を行い自らの不安を払拭する。また事後学習では、自らの実習の振り返りを主としながらも他ゼミ生の実習経験も共有し、スクールソーシャルワーカーの専門性を理解する。</p>			
学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 学校におけるSSWrの必要性</li> <li>3. ～4. ケース会議(校内・拡大ケース会議)</li> <li>5. ～6. チームアプローチ</li> <li>7. ～8. 記録の重要性</li> <li>9. ～10. 実習目標と実習計画(個別指導含む)</li> <li>11. ～12. 個人のプライバシーと守秘義務</li> <li>13. ～15. スーパービジョンとその必要性</li> <li>16. まとめ</li> </ol>			
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>山野則子ほか(2012)：『よくわかる スクールソーシャルワーク』ミネルヴァ書房。                  ①山下・内田・牧野編著(2012)：『新スクールソーシャルワーク論』、学苑社。                  ②門田・奥村監修(2014)：『スクールソーシャルワーカー実践事例集』中央法規。                  ③米川編著(2015)：『スクールソーシャルワーク実習・演習テキスト』北大路書房。</p>			
	<p>学びの手立て</p> <p>「スクールソーシャルワーク演習」の内容を踏まえて、スクールソーシャルワーク実習の事前学習に取り組む。実習に対する不安を払拭するために、事前に積極的に学ぶこと。実習前に学習ボランティア活動を行うなど学校現場とつながりをもつことで、実習のイメージも膨らむであろう。</p>			
	<p>評価</p> <p>授業態度、出席状況、レポート等を総合して評価する。</p>			
学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本科目を修めた後、「スクールソーシャルワーク実習」に挑む。                  関連科目：「スクールソーシャルワーク論」「スクールソーシャルワーク演習」ほか。</p>			